

令和5年度助成事業一覧表

区分	事業名	主催団体	事業内容	実績報告
生涯学習・地域文化の振興事業	「未来の学び」(小学生・中学生のための生涯学習講座)	特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなし	<p>夏休み中の小学生とその保護者を対象に山梨大学の講義室において山梨県内の大学の教員が「未来の学び」講座を行ってきたが、小学6年生の参加者から「中学生になっても参加できるようにしてほしい」という要望が複数寄せられたため、今回は中学生も対象とする。</p> <p>小学生・中学生にとっては、将来の進路や将来の夢を見つける機会となり、大学教員にとっては、自分の研究をわかりやすく解説する教育力養成の場となる。講座は、大学で様々な専門分野を研究する人的資源を活用して、2日間にわたって6講座を開講する。講義の場合は60分、実験・実習の場合は90分以内とする。受講料は無料とする。予定している山梨大学の講義室のコロナ対応収容人数に従い1回の定員は150名とする。人が集まる場所への外出をためらう小学生や保護者のためにZoomミーティングシステムで中継し、レコーディングしてアーカイブ化する。</p> <p>大学教員には教育、研究、社会貢献という業務があるが、コロナ禍の中で教育、社会貢献は困難になっている。このため「未来の学び」講座報告書を出版することによって、大学教員の教育業績環境を整え、山梨県民に対する社会貢献事業の場を提供する。また報告書は、県内の小中学校に全校配布し、今後のキャリア教育の資料とする。</p>	<p>①実施期間 令和5年4月～令和6年3月(講座は8月19日、20日の2日間)</p> <p>②参加人数 148名</p> <p>③事業効果 6名の大学教員が、普段は授業が行われる教室で小学生・中学生と保護者に向けて講座を開催したが、アンケートには「親子で大学に行って講義を受けることがとても新鮮でした。」「子供が興味を持って取り組める内容で、親も参加できたので夢中になりました。」「もう少し早い時期に開催していただけたらここで学んだことを夏休みの自由研究として取り組めるとと思います。」などの意見が寄せられた。</p>
	不登校児童生徒支援事業	特定非営利活動法人フリースクール・オンリーワン	<p>本スクールの案内チラシ、パンフレット、ポスターを作成し、山梨県内の小中学校、放課後等ディサービス等関連施設に送付する。Twitterにも掲載し、小中学生、高校生に情報を発信する。</p> <p>授業の他、不登校や引きこもりの子どもたちを対象とした相談支援は、電話やメール、面談を通して行う。</p>	<p>①実施期間 令和5年4月～令和6年3月</p> <p>②参加人数 不特定多数</p> <p>③事業効果 第三の居場所について広報活動の強化を図ったことにより、相談件数が増加した。また、不登校や登校渋りなど、悩みを抱えている子どもや保護者に居場所、相談支援を提供する事ができた。</p>
地域づくりの推進に関する事業	都留市の冊子を作ろう～地域の魅力発見～	特定非営利活動法人ぐんないや-織syoku-	<p>対象は小学生から大人まで。講師は、フリーペーパー作成会社の社員や都留文科大学の冊子を作るサークルに所属する学生が担当。講座内容としては、10回企画する。時間は土日の9～17時で行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介、班を作る。対象地区を発表。 ② 都留市の様子を見てみよう。班で都留市の各地区に移動する。 ③ 都留市の各地区の魅力を探る。 ④ フリーペーパーの作り方を学ぶ冊子編集者による講義、サポートに入る Revoフィールドノートに所属する学生の紹介 ⑤ 取材計画を立てる。 ⑥ 取材内容を整理する。 ⑦ フリーペーパーを作成 ⑧ フリーペーパー校正と批評会 ⑨ フリーペーパーの訂正と印刷会社と打ち合わせ ⑩ フリーペーパー完成 ④から⑩までは冊子編集者が講師として入る。 <p>会の進行はぐんないやスタッフや冊子作る大学生がサポートする。</p>	<p>①実施期間 令和5年10月～令和6年3月</p> <p>②参加人数 40名</p> <p>③事業効果 取材に協力いただいた東桂地域の10店舗に合計2500部置かせてもらっている。どの店舗でもお客様が持って行っており、地域の住民や外から来た観光客に東桂地域の魅力を知ってもらうきっかけを提供している。</p>
看護の促進に関する事業	健康データ収集システム改修と運用	特定非営利活動法人慢性疾患診療支援システム研究会	<p>本NPOはICTを利用し投薬情報、基礎疾患、治療内容などの診療情報をインターネットとコンピュータを中心として医療者ならびに住民がともに管理する健康管理システム“マイ健康レコード”を17年運用している。この中では投薬情報の収集も行っており、正確な健康情報に把握に有用である。本システムはインターネットとコンピュータを中心としているものであるが、高齢者でも簡単にこのシステムと連携可能にして、データへのアクセスを容易にしている。また、生体情報を取得するウェアラブルからの情報を収集し、家庭用測定器からの情報を入力/蓄積/活用することを目指している。それにより早期に感染の兆候を知ることや、体調の変化を捉えることが可能となるため、重症化の危険性を軽減する。今回、これまでに作成した健康データ収集システムの改修と運用を行うことで、高齢者でも使いやすい仕組みに改善していきたい。</p>	<p>①実施期間 令和5年4月～令和6年3月</p> <p>②参加人数 100名</p> <p>③事業効果 参加者と運営者との密なコミュニケーションの推進に効果があった。参加者の質問へ回答することで事業の適正化が推進できた。</p>